

経営比較分析表（令和3年度決算）

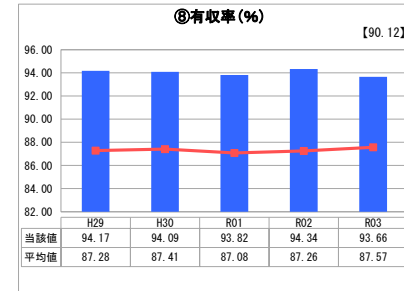
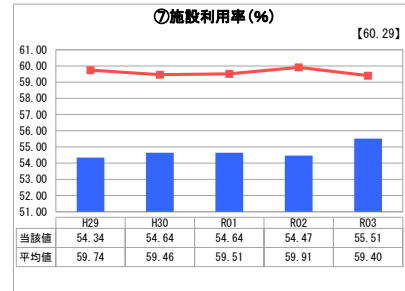
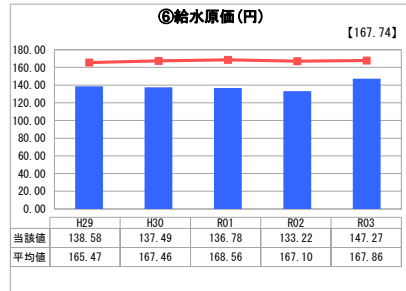
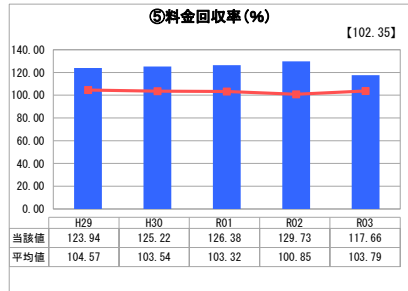
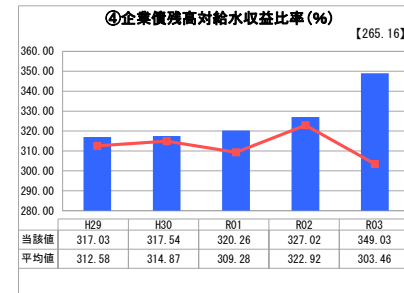
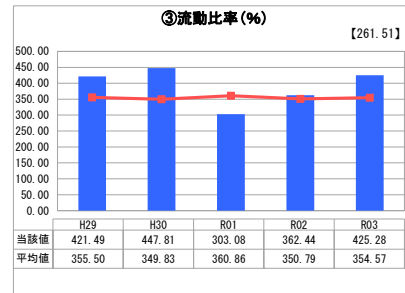
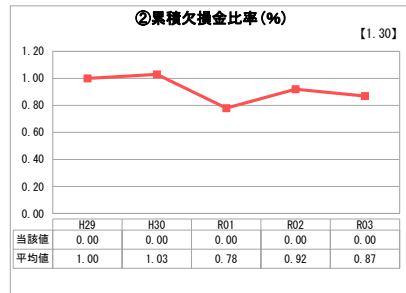
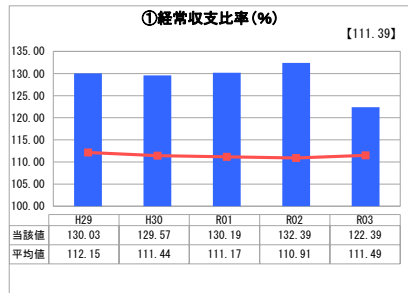
佐賀県 鳥栖市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金(円)	
-	67.82	97.64	3,300	

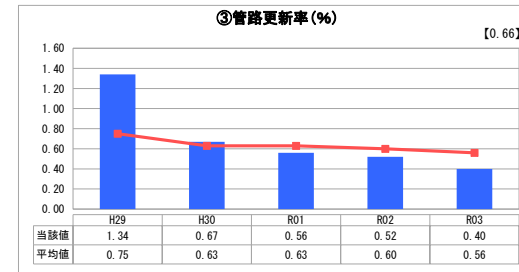
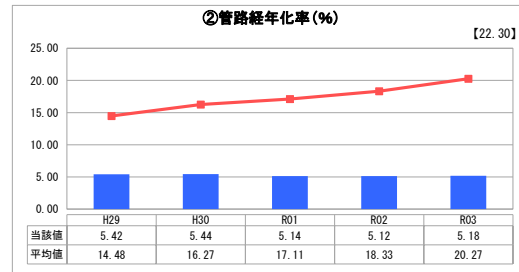
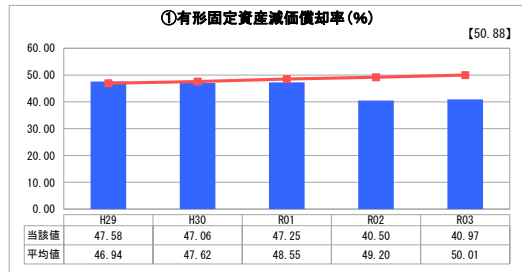
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
74,037	71.72	1,032.31
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
72,095	43.66	1,651.28

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率及び料金回収率は、類似団体平均値よりも高く、その他の指標においても全国平均と比較し概ね良好な数値となっており、公営企業として妥当な経営状況となっている。
 企業債残高対給水収益比率が平成29年度より上昇しているが、浄水場更新工事の財源確保のために企業債を発行したことによるものである。企業債の借入については必要最小限度にとどめるとともに建設改良工事の平準化を実施するよう努めている。また、施設利用率に関しては類似団体より低い数値となっている。

2. 老朽化の状況について

現在の水道施設は昭和40年～50年代に築造されたものがほとんどで老朽化が進んでいる。さらに、耐震化されていないため、安定した給水を行うために施設の更新が必要である。
 老朽化した水道施設の更新と耐震化及び非常時の対応強化等を図るため、平成25年度から15年を要する水道施設整備事業に取り組んでいる。

全体総括

経営の健全性・効率性に表れているように、現時点では良好な経営状況となっているが、現在進めている水道施設整備事業は、健全な財政状況の確保など水道事業の経営に大きな影響を与えるものと認識している。特に財源については企業債が中心となることが想定されるため、今後の経済状況に基づく利率の見直しによる企業債利息及び減価償却費等の固定費の大幅な増加は避けられないと考えている。
 また、現在のところは人口が増加しているが、いずれ人口が減少していくことが予想されるため、さらなる経営分析並びに将来を見据えた事業運営が必要であると考えている。